

# オホーツクの風

平成24年1月11日(水) 新年号(0006)

発行所  
北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会  
事務局  
北見市緑ヶ丘1-10-16  
Tel 0157-61-0684

## 赤ちゃんの部屋をリニューアル

### お産の病床をリニューアル

新しい年を迎え、私たち・支援する会は北見赤十字病院の医師・看護師・コメディカルそして医療にたずさわるすべてのみなさまの日ごろのホスピタリティに感謝すると共に迎春にあたり一層のご活躍を願っています。

新しい年を迎え、新しい命の誕生に日夜懸命に取り組み同院の「周産期母子医療センター」



プレイバシーに配慮したロビー空間に改装。

を取り上げました。産科医師・小児科医師・看護師そして多くのコメディカルスタッフがチームとなつてお母さんと赤ちゃんの診療や治療そしてお産に取り組んでいます。

集中治療室(NICU)があります。中には赤ちゃんの体温を保つための保育器や、人工呼吸器、赤ちゃんの状態を細かく観察できるモニター類が備えています。昨年、病院の見学会でその施設を訪れた様子に感動した。

施設の老朽化が甚だしいこと、時代の変化で仕事を持つ女性が受診しづらいなど当センターへのいろいろな意見を戴いています。

新しい病院建設が始まっていますが、お産

などは待ったなしです。新病院建設の検証をふくめて、最小の費



増設した個室はゆったりと入院生活ができます(有料)。

たりと入院生活を送ることが出来ます。②一般産褥(さんじよく)室(4床)のベットはすべてセミダブルベットになり、赤ちゃんと添い寝ができ、産後の日々をゆつくりとすごすことが出来るようになりました。

生したご夫妻をお祝いしてホテルなみの「お祝い膳」を心をこめて調理します。

⑤午後の妊婦健診を始めました。また母親学級・1カ月健診・予約検査など紹介なしでも外来診療を行います。

当センターは北見市内の2次医療を担う基幹病院の役割を担っています。市内の産婦人科を標榜している病院、診療所からの紹介にも、速やかに「地域医療連携室」が窓口になり、患者さま目線に対応しています。当センターの詳しい情報は

③ロビーは古くなつたイスとテーブルを入れ替えて、プレイベイトな明るい落ち着いた空間を作りしました。④入院中のお食事を今回のリニューアルを機会に、新しい命が誕



「祝い膳」、家族で喜びを。

Q・周産期医療とは  
A・妊娠22週から生後満7日未満までの期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性があります。

周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要であることから、特に「周産期医療」といわれています。

同病院のホームページをご覧下さい。今回の取材・写真提供には総務課、企画課、地域医療連携室の協力を戴きました。有難うございました。

私たち・支援する会と北見日赤との関係は厳しいものがあります。私たちは今年も同病院と患者さん、北見市民との仲人役を果たして行きます。

